

○エンコウソウの新染色体数 (西川恒彦) Tsunehiko NISHIKAWA: A new chromosome number of *Caltha palustris* var. *enkoso* Hara

エンコウソウ *Caltha palustris* var. *enkoso* Hara の染色体数については、既に旭川市産の植物で $2n=60$ を報告した (西川 1979)。今回、青森県十和田市産の植物で $2n=88$ の新染色体数を観察したので報告する。染色体数の観察は、採集した植物 (2 個体) の鉢栽培して得た根端を 0.05% コルヒチン水溶液で 2~3 時間前処理し、常法の酢酸オルセイン染色、押しつぶし法によった。

観察結果は Fig. 1 (A & A') に示す。この $2n=88$ の数は、これまで報告されている *C. palustris* s.l. の最大の数である (Smit 1967, Kootin-sanwu & Woodell 1970)。

なお、1979年以來、筆者は北海道産 *Caltha* 属植物の染色体数をさらに80ヶ所で調査した結果、エゾノリュウキンカ *C. palustris* var. *barthei* には染色体数が $2n=32$ と 60 の2種類あり、その分布域が異なっている (西川ら1982) ことや、道北及び道東産のエンコウソウで $2n=60$ の染色体数を観察しているが、日本以外で $2n=32$ とともに数多く報告されている $2n=56$ の染色体数については未だ観察していない。これに対して、今回本州産のエンコウソウで $2n=88$ が認められたことや、リュウキンカ *C. palustris* var. *nipponica* で $2n=56$ (Kurosawa 1982) が報告されたことから、本州産の *C. palustris* は北海道産のものとは倍数形成の起源を異にするように思われる。さらに *Caltha* 属の基本数は一般に8とされるが、7も考えられる (Smit 1967) ので、 $2n=60$

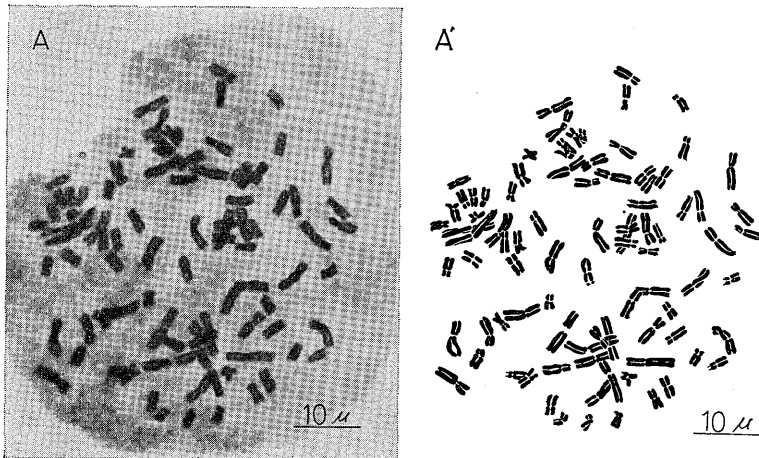


Fig. 1. Somatic chromosomes ($2n=88$) of *Caltha palustris* var. *enkoso* collected from Towada city, Aomori Prefecture.

の植物は 7 と 8 の系列の植物との交雑により生じた可能性もある。これらのことは、日本産 *Caltha* 属植物の系統を考察する上で興味深く、さらに本州産の *Caltha* 属植物の染色体数の調査の必要性が示唆される。

A new chromosome number, $2n=88$, was reported for *Caltha palustris* L. var. *enkoso* Hara of Towada city, Aomori Prefecture. The present number is the highest among the chromosome numbers which have been hitherto known in *Caltha palustris* s.l.

文 献

- Kootin-sanwu, M. & S. R. J. Woodell 1970. The cytology of *Caltha palustris* L. (sensu lato): Distribution and behaviour of the chromosome races. *Caryologia* 23: 225-239. Kurosawa, S. 1982. Cytotaxonomical studies on the flowering plants of the Oze district. In Ozegahara, scientific research of the highmoor in central Japan: 135-139. Japan Society for the Promotion of Science. 西川恒彦, 1979. 北海道産植物の染色体数(2). 北海道教育大学大雪山自然教育研究施設研報. 14: 15-23. ———・今村応教・新出秀之. 1982. 北海道産エゾノリュウキンカの染色体数. 第31回日本植物学会北海道支部大会講演要旨, 7. Smit, P. G. 1967. Taxonomical and ecological studies in *Caltha palustris* L. *Proc. Roy. Neth. Acad. Sci. Ser. C.* 70: 500-510.

(北海道教育大学旭川分校生物学教室. Biological Laboratory, Asahikawa College, Hokkaido University of Education, Asahikawa 070.)

□高島四郎: 京野菜 210 pp. 1982. 淡交社, 京都. ¥1,200. 現在栽培されている日本の野菜は160余種に及ぶという。京都は永く首都としてさかえ、多くの人口をかかえて、種々な野菜が盛んに栽培、取り引きされた処として有名である。いわゆる京野菜としてそれに触れたものも二三でているが、本書ではダイコンを始めとしてカブ、タケノコ、サトイモ、ゴボウ、ツケナ、セリ、ネギ、カボチャ、ナス、キュウリ、シロウリ、ササゲの順に来歴、性状、用途、栽培などを詳らかに述べている。漬菜(ツケナ)など中々に詳しい。都会の発展するにつれてその産地が減って行くのは惜しいことだが、著者をはじめ府、市等の協力で少なくとも現在の種子が保存されるようになったのは喜ばしいことであり、それを考えて1本が出たのも嬉しいことであった。(前川文夫)